

「動物のためのアロマセラピー —ペットにアロマが危ない?!—」

田邊和子 獣医師



同じく獣医師である夫の仕事の関係で、上野動物園内に長年暮らす機会を得る。東京大学呼吸器内科および国立国際医療センター呼吸器疾患研究部にて、酵素精製や遺伝子の研究に携わる。米国サンディエゴ動物園のホルモン学者Chekela女史からアロマセラピーの手ほどきを受ける。その後、Kristen Leigh Bellの『Holistic Aromatherapy for Animals』の翻訳を手がけたことで、猫における精油のリスクを知り、2005年に日本アニマルアロマセラピー協会を立ち上げ、動物たちの命を守る活動を開始する。2007年英国のMartin Wattに師事。Medical Aromatherapy Training Courseを受講し、世界中のアロマセラピーの情報が根底から揺らいでいることを知る。Watt氏の友人であるMaria Lis-Balchinが著した『Aromatherapy Science』と出会い、正しいアロマセラピーに関する情報提供が急務であると考え、京都大学、近畿大学と共同で翻訳する。

英国 Aroma Medical の講座を受講 / 2008 年資格取得
 日本アニマルアロマセラピー協会副会長
 AromaVet Japan 代表
 株式会社 KITPUPS 代表取締役
 米国 Association for Truth in Pet Food 日本代表理事
 獣医師、国際パンダ会議通訳

〈翻訳書〉アロマセラピーサイエンス (フレグランスジャーナル社) / Plant Aromatics (自費出版) / 愛しのペットアロマセラピー (さんが出版) / ナチュラルキャットケア (ペットライフ社) / 爬虫類マニュアル / エキゾチックペットの医学 (学窓社)
 〈著書〉猫から飼い主への手紙 (プログハウス)
 その他、学術論文など

■ 講義概要 ■

ペットの飼い主さんのアロマの影響で、愛猫や愛犬が死んでしまうかも知れない。アロマセラピーは、人間にとっても、決して安全な補完代替医療ではありません。一般に言われる精油の効果/効能は、実はハーブの薬理作用だったのです。しかも、アロマで利用する精油は、人工的に濃縮された有機化合物で、毒物や薬物に匹敵する生体外異物です。人を含むいずれの動物でも、体内に吸収された精油成分は、迅速に体外に排泄される必要があります。動物は種ごとに肝臓の解毒/代謝機構が異なります。人には癒しとなるアロマの香りも、一緒に暮らす動物たちにとっては、命を奪う原因になってしまうことがあるのです。ペットのアロマセラピーで決して行ってはいけないこと、アロマセラピーをペットに対して、安全に利用するにはどうすれば良いか、愛犬、愛猫たちの健康を守り抜くための方法を、アロマ界の現状とともに、詳細にお話させていただきます。

※講演者の都合により、内容が一部変更する場合がございます。予めご了承下さい。

■ 推薦図書 ■

アロマセラピーサイエンス



マリア・リス・バルチン 著
 田邊和子 松村康生 監訳
 B5判 582頁
 定価 6,930円
 (本体 6,600円)

サイエンスの目で見るとハーブウォーターの世界



井上重治 著
 A5判 398頁
 定価 4,515円
 (本体 4,300円)

抗菌アロマセラピーへの招待



井上重治、安部 茂 著
 B5判 264頁
 定価 4,200円
 (本体 4,000円)